

学生によるスペイン語劇 “El Cuervo” の上演を終えて

2023年12月18日(月)、スペイン語学科主催(外国語学部文化ウィーク、人文学会 後援)のスペイン語劇“El Cuervo”(Alfonso Sastre 作)が上演され、学内外から120名にのぼる皆さまにご来場いただきました。

スペイン語学科では、これまでほぼ隔年で学生によるスペイン語の演劇を実施してきました。第1回(2005年)の“Don Quijote”から数えて、今回が9作目となります。スペイン語学科のアクティビティとして世代を超えて受け継がれていますが、2021年度の作品“Doña Perfecta”は、コロナ禍により観客なしで撮影した動画を公開する形となってしまいました。観客を前にしての上演は2018年の「神奈川大学スペインウィーク」で披露した“Fuentovejuna”以来のことです。その5年の間に、ホールで上演した経験のある学生ほとんどが卒業してしまつたため、今回は手探りでの準備となりましたが、出演者・スタッフ一同、それぞれが懸命に制作に取り組みました。キャストの学生たちは、上演に向けてパート練習や通し稽古などを何カ月にもわたって繰り返しました。舞台美術や字幕、メイク、メディアの担当

者たちも徐々に作業に加わり、みんなの素晴らしいチームワークでスペイン語学科の語劇を見事に復活させてくれました。今回の公演は、参加した学生にとっても、またその演技を生で見た多くの学生にとっても、大変有意義な体験になったことと思います。

(スペイン語学科・菊田)



外国語学部 スペイン語学科 菊田 和佳子
 語劇チーム “Grupo Teatro Mágico”
 参加者からのコメント

竹田 幸世(第2幕 Juan 役/4年)

今回の語劇で私は第2幕のJuan役を演じさせていただきました。Juanは1年前に妻 Lauraが殺され、悲しみに暮れていましたが、2幕では Lauraが幽霊として彼の目の前に現れます。Juanは物語の中核を担う人物であり、セリフの量が多いため暗記をするのが大変でした。特に終盤では詩の“El Cuervo”の一部を暗唱する場面があり、詩が持つ独特のイントネーションや発音の難しい単語に苦労しました。複雑なキャラクターであり、更に男性役でもあったので、どのように演じるべきか悩みながら練習をしていました。目の前に1年前死んだはずの最愛の人が現れたら、どんな感情になるのか考えることは面白かったです。本番当日にはメイク担当の仲間を手伝ってもらいながら、髭をアイライナーで描いてJuanになりきりました。舞台メイクをはじめ、小道具やカメラ、字幕など、たくさんの方にご協力頂いたおかげで、クオリティが高い舞台に仕上がりました。2年前に参加した語劇と今回の語劇は、間違いなく大学4年間でかけがえのない経験、思い出

となりました。昨年12月の舞台を観て、興味を持ってくださった方がいらっしやれば、是非、次回の舞台へ挑戦してみたいかがでしょうか。

宮城 清花 (Laura 役 / 4年)

私は2年前の前回に引き続き、2回目の参加でした。しかし、今回の作品は、前回とは時代設定も題材もガラッと変わっています。出演したメンバーには前回参加した人もいれば今回が初参加の人もいましたが、台本や動きについて話し合った



り、励まし合ったりしながら稽古を進めていきました。それと同時に裏方のメンバーの準備も進んでいきました。先生方の演出や大道具・小道具とも手の込んだセット、字幕の作成や、それぞれの役にあったメイクなど、非常にたくさんの協力の応援のもと、そしてなにより当日来てくださったお客様ののおかげで、本番を迎えることができました。

自分自身が学んできたことの全てをもって、学科の素敵な取り組みに参加できたことを嬉しく思います。本当にありがとうございました。

城間 一登 (第1幕 Alfonso 役 / 3年)

私は今年と一昨年のスペイン語劇に参加しました。一昨年は、コロナ禍で練習時間が限られていて、無観客状態で披露しました。今回は初めてたくさんのお客様の前で演技することができ、とても良い経験になりました。本番を迎える前は、セリフが多いうえに就活でも忙しかったので、ちゃんと覚えられるか心配でした。しかし、先生や仲間たちのおかげで自信を持って演技することができました。もし、今後語劇に興味を持つ方がいたらぜひ参加してください。授業以外で本格的なスペイン語を学ぶいい機会になると思います。

鎌田 心輝 (第2幕 Alfonso 役 / 3年)

私は一昨年のスペイン語劇にも参加しました。その時はコロナ禍による制限のもとで観客がいない状態で実施されました。しかし、今回のスベ

イン語劇では先生方が立派なホールを用意してくださり、多くの観客の前で演技することができました。私はスペイン語を話すのが得意な方ではありませんが、劇の際には本番までに多くの練習やネイティブの先生方の指導があったため、本番では自信をもって参加することができました。今回の語劇で私はスペイン語を使うことに対して自信が持てましたし、今後スペイン語を学習していく上でのモチベーションになったと思います。

